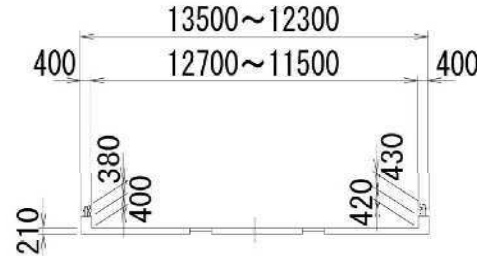
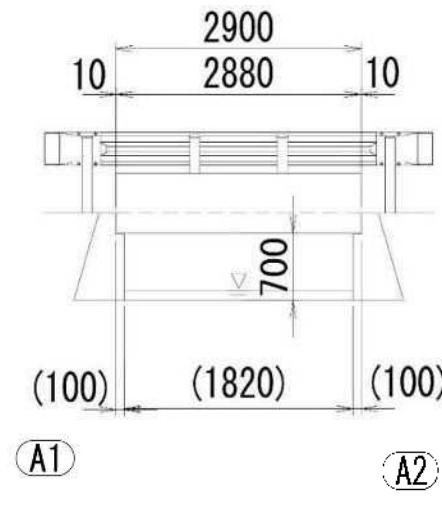
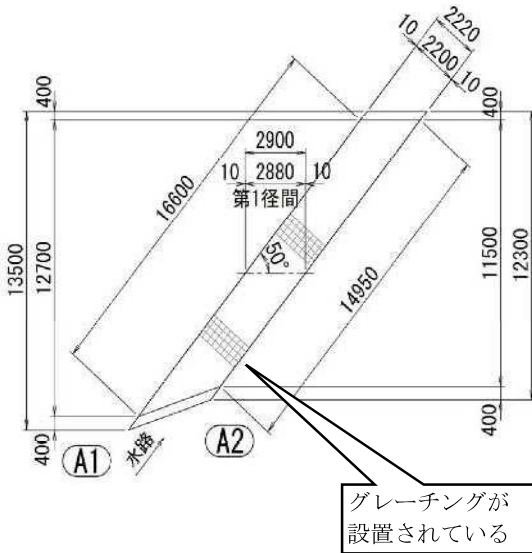
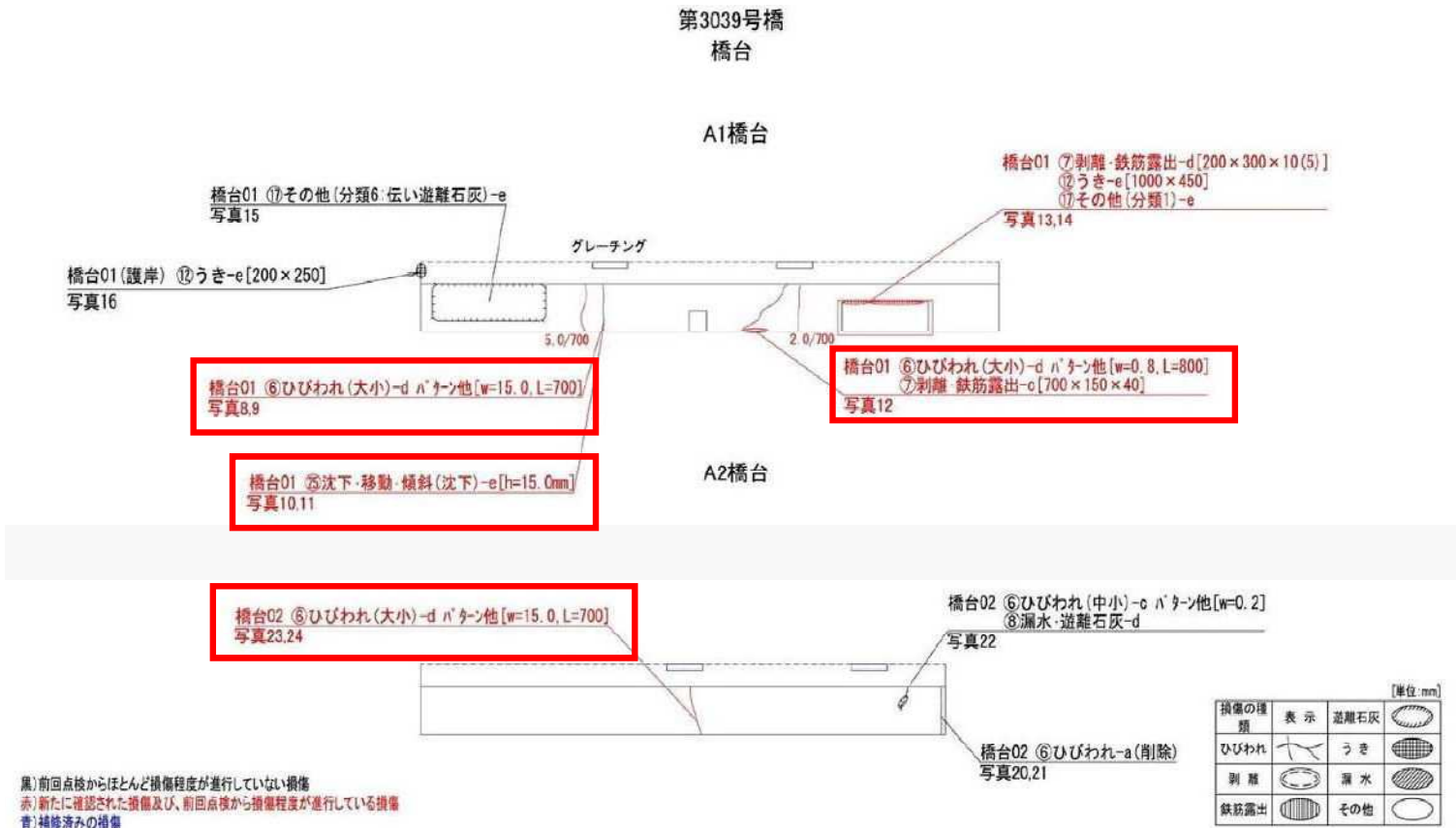


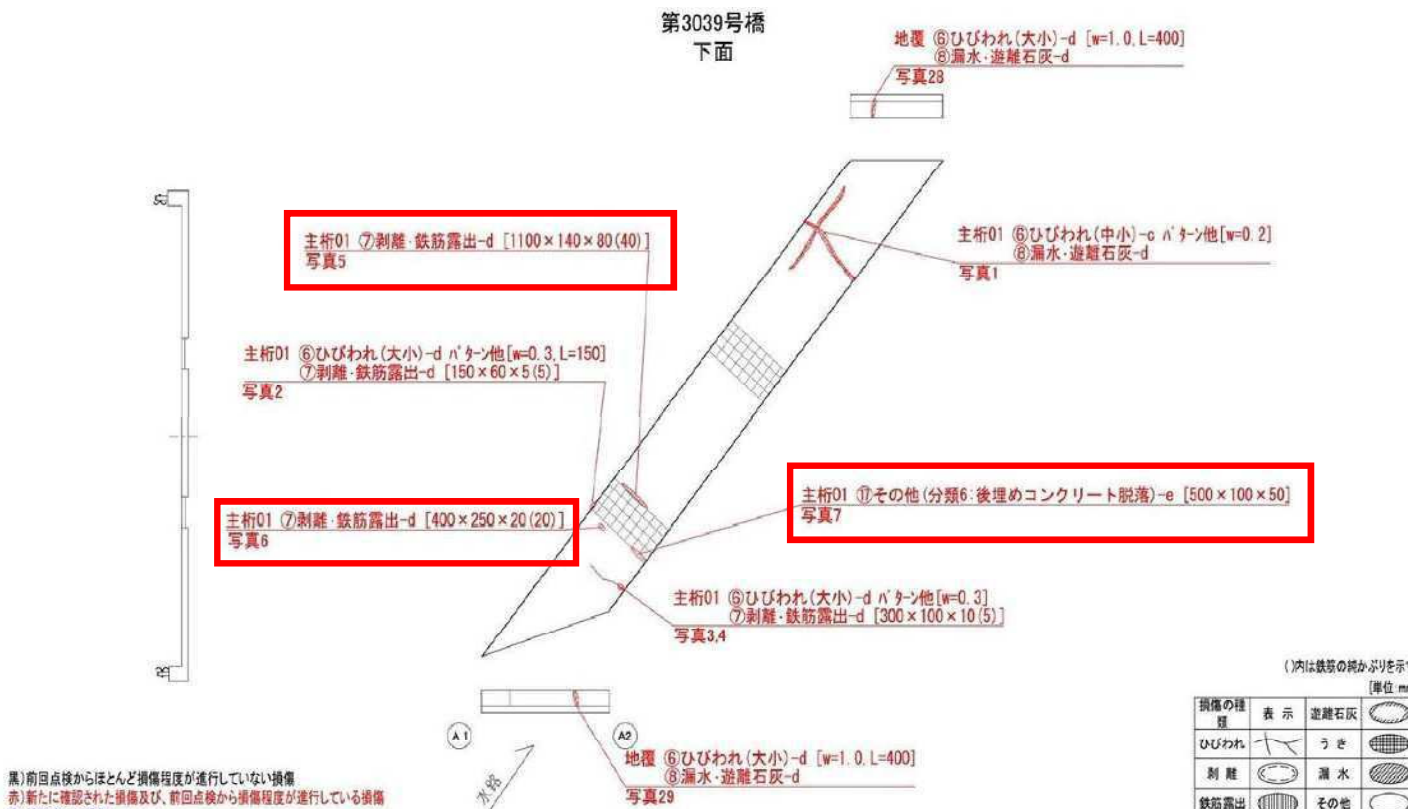
【第 3039 橋の特記損傷①】							一般図			
通し番号	一連番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	全幅員 (m)	架設年	点検時に 鉄筋探査を 実施	平面図	側面図	断面図
9	73	第 3039 橋	市道 L2 号線	2.9	12.9	不明				
所在地・橋梁 ID			上部工形式	下部工形式						
日野市南平六丁目 16 番 22 地先 35.65582,139.39261			RC 中実床版	躯体：不明 (A1,A2) ※無筋構造 基礎：不明 (A1,A2)						
点検日	点検方法	交差物	適用示方書	設計活荷重						
2023.12.15	地上（胴長）	用水路	—	不明						
現況写真										
										

■Ⅲ判定となる損傷【橋台】

損傷概要	A1、A2 橋台に顕著なひびわれが生じている。鉄筋探査を実施したところ無筋構造物であった。 A1 橋台：w=15.0 mm、2.0 mm、0.8 mm、A2 橋台：w=15.0 mm
該当写真	
	
[A1 橋台：ひびわれ] 写真 8 箇所 W=15.0mm	
測定点（アンカーピン）を設置 計測値：82.8 mm	
[A1 橋台：沈下] H=15.0 mm	
考 察	
【原因推定】 国土地理院の航空写真を確認すると昭和 30 年代には水田、畑作地であり、その後に宅地開発や開放水路の施工がされている。この構造物周辺は軟弱な地盤だと推測し不同沈下により生じたと推察する。 【今後の対応（案）】 周辺地盤の不同沈下は、地震による液状化現象などが生じなければ急速に進行する状況では無いと考えられる。今後の損傷進行をモニタリングするため測定点（アンカーピン）を 4 箇所設置、定期的な測定による観察で対応可能である。 挙動が見られる場合は、保護工の設置、プレキャストボックスカルバートへの架け替えを検討することが望ましい。	
損傷図	
	
【橋台の損傷】	

【第 3039 橋の特記損傷②】							一般図			
通し番号	一連番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	全幅員 (m)	架設年	点検時に鉄筋探査を実施	平面図	側面図	断面図
9	73	第 3039 橋	市道 L2 号線	2.9	12.9	不明				
所在地・橋梁 ID			上部工形式	下部工形式						
日野市南平六丁目 16 番 22 地先 35.65582,139.39261			RC 中実床版	躯体：不明 (A1,A2) ※無筋構造 基礎：不明 (A1,A2)						
点検日	点検方法	交差物	適用示方書	設計活荷重						
2023.12.15	地上（胴長）	用水路	—	不明						
現況写真										
										

■Ⅲ判定となる損傷【床版】		
損傷概要	床版をくり抜きグレーチングが設置され、グレーチングを支えている H 鋼下の床版コンクリートに剥離や床版下面に鉄筋露出が確認される。最悪の場合グレーチングの落下が懸念される。	
該当写真		
 グレーチング支持 H 鋼直下のコンクリート剥離・鉄筋露出	 グレーチング支持 H 鋼の後埋めコンクリートが脱落	 床版下面の鉄筋露出
考 察		
【原因推定】 点検時にも頻繁に車両通行があり、宅配便車両、灯油輸送車両(2t 車:車両総重量が 5 トン未満、3t車:車両総重量が 7.5 トン未満)なども通行している。グレーチングを支持する H 鋼のたわみにより生じていると推測する。 周囲は宅地開発されており重車両も通行していたと考慮すると通行車両の活荷重に対して耐力が不足していると推察される。		
【今後の対応（案）】 先述の不同沈下の事象もあることから、本橋梁のグレーチングを考慮した耐荷力照査を行うことが望ましい。 場合によっては耐荷重や不同沈下対策を考慮して、プレキャストボックスカルバートへ架け替えも検討することが望ましい。		

損傷図													
第3039号橋 下面  主桁01 ⑦剥離・鉄筋露出-d [1100×140×80(40)] 写真5 主桁01 ⑥ひびわれ(大小)-d ⑦剥離・鉄筋露出-d [150×60×5(5)] 写真2 主桁01 ⑦剥離・鉄筋露出-d [400×250×20(20)] 写真6 主桁01 ⑥ひびわれ(大小)-d ⑦剥離・鉄筋露出-d [300×100×10(5)] 写真3,4 主桁01 ⑦その他(分類6:後埋めコンクリート脱落)-e [500×100×50] 写真7 主桁01 ⑥ひびわれ(中小)-c ⑦剥離・鉄筋露出-d [w=0.2] 写真1 地覆 ⑥ひびわれ(大小)-d [w=1.0, L=400] ⑧漏水・遊離石灰-d 写真28 地覆 ⑥ひびわれ(大小)-d [w=1.0, L=400] ⑧漏水・遊離石灰-d 写真29 （内は鉄筋の径かぶりを示す。単位 mm） <table><tr><th>損傷の種類</th><th>表示</th><th>遊離石灰</th></tr><tr><td>ひびわれ</td><td>うき</td><td></td></tr><tr><td>剥離</td><td>漏水</td><td></td></tr><tr><td>鉄筋露出</td><td>その他</td><td></td></tr></table>		損傷の種類	表示	遊離石灰	ひびわれ	うき		剥離	漏水		鉄筋露出	その他	
損傷の種類	表示	遊離石灰											
ひびわれ	うき												
剥離	漏水												
鉄筋露出	その他												
【床版下面の損傷】													

【幹線市道Ⅱ-19号線橋の特記損傷①】

通し番号	一連番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	全幅員 (m)	架設年
15	38	幹線市道Ⅱ-19号線橋	幹線市道Ⅱ-19号線	93.7	7.3	1975
所在地・橋梁 ID		上部工形式		下部工形式		
日野市南平五丁目9番1地先 35.66400,139.40565		4径間単純 PC ポストテンション T 桁橋		躯体：逆 T 式 (A1) 基礎：直接基礎		
点検日	点検方法	交差物	適用示方書	設計活荷重		
2024.02.28	スパイダーリフト、梯子	道路・水路	S47	TL-20		

現況写真



■Ⅲ判定となる損傷【伸縮装置の劣化】

損傷概要	突合せ式ゴム製伸縮装置の劣化が進行し、シール材の脱落により空隙も生じている。 この空隙により車両通行の際は、段差を感じるほどである。桁下面には伝い水も見られる。
------	---

該当写真



〔伸縮装置：変形・欠損〕



〔橋脚：伝い水〕



〔支承：変色・劣化〕
鋼板積層型ゴム支承で鋼板に腐食

考 察

【原因推定】

本橋梁は、1975 年東京都によって施工された橋梁であり、架設後 49 年が経過している。日野市への移管時期は不明であるが、この間に伸縮装置の取替がされていないと推測し、経年劣化による著しい損傷が生じている。また止水機能喪失の影響で、桁下面では伝い水による鉄筋露出やゴム製支承の劣化も進行している。

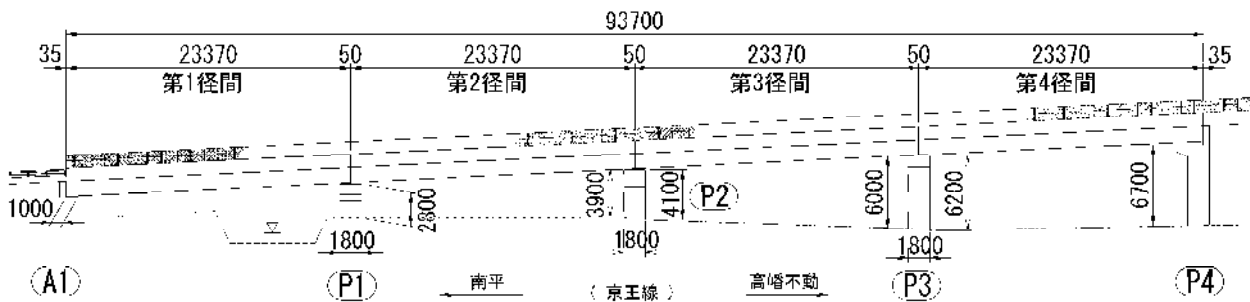
【今後の対応（案）】

車両のみではなく、歩行者の通行もみられることから、空隙部分の段差による転倒など利用者被害に直結する状態（診断基準で検討すれば E2 レベル）である。

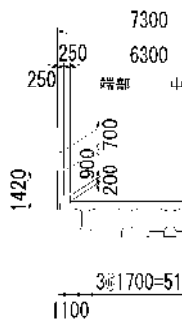
伸縮装置の交換補修を早期に実施することが望ましい。

一般図

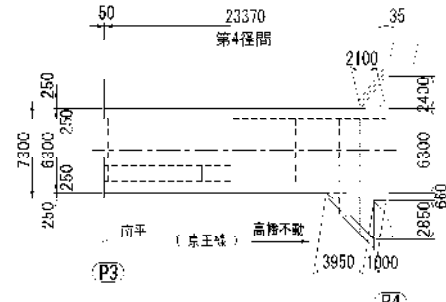
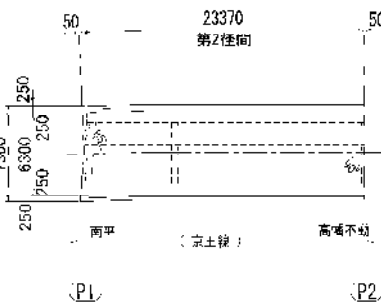
側面図



断面図



平面図



損傷図



〔橋面の損傷〕

P4 側の伸縮装置は補修されている。

【幹線市道Ⅱ-19号線橋の特記損傷②】							一般図									
通し番号	一連番号	橋梁名	路線名	橋長(m)	全幅員(m)	架設年	側面図 断面図 平面図									
15	38	幹線市道Ⅱ-19号線橋	幹線市道Ⅱ-19号線	93.7	7.3	1975										
所在地・橋梁ID		上部工形式		下部工形式												
日野市南平五丁目9番1地先 35.66400,139.40565		4径間単純PC ポストテンションT桁橋		躯体：逆T式（A1） 基礎：直接基礎												
点検日	点検方法	交差物	適用示方書	設計活荷重												
2024.02.28	スパイダーリフト、梯子	道路・水路	S47	TL-20												
現況写真							損傷図									
■Ⅲ判定となる損傷【落下物防止柵の腐食】																
損傷概要	京王線側の落下物防止柵は腐食の進行が顕著であり、枠材に破断・孔食が見られる。 なお、隣接する都道側のフェンスは補修されている。						該当写真									
〔落下物防止柵：腐食〕 赤丸箇所：孔食が見られる							考 察									
〔落下物防止柵：腐食〕 ネット枠材が破断している																
参考 東京都管理側の落下物防止柵																
【原因推定】																
本橋梁は、1975年東京都によって施工された橋梁であり、架設後49年が経過している。日野市への移管時期は不明であるが、この間に落下物防止柵の補修がされていないと推測し、経年劣化による著しい損傷が生じている。																
【今後の対応（案）】																
更なる腐食が進行すると、雪などの荷重により脱落が生じることや枠材破断による切断面露出の可能性も考えられ、線路上への落下や歩行者・通過車両への接触など重大事故に繋がる懸念がある。																
支柱の塗替えやネット部分の交換などを早期に実施することが望ましい。							〔橋面の損傷〕 <th data-kind="ghost"></th>									

【奥山橋の特記損傷】（詳細調査を推奨する損傷）

通し番号	一連番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	全幅員 (m)	架設年
16	172	奥山橋	市道 K39 号線	31.65	8.8	1972
所在地・橋梁 ID			上部工形式	下部工形式		
日野市平山二丁目 3 6 番地 1 先 35.64418,139.38641			3 径間連続 PC ラーメン橋	躯体：その他 (A1,A2) 基礎：不明 (A1,A2)		
点検日		点検方法	交差物	適用示方書	設計活荷重	
2023.12.19		高所作業車	都道 155 号線	—	不明	

現況写真



■詳細調査を要する損傷

概要	主構の橋脚前後のセグメント接合部に漏水・遊離石灰が見られ、常に水滴が落ちている状況である。 主構の中空断面となる内部に滞水が疑われる。
----	--

該当写真



〔主構：漏水・遊離石灰〕
（セグメント接合部）

左写真の近接〔遊離石灰〕
（つらら状で水滴も確認される）

〔舗装：舗装の異常〕
（路面のひびわれ）

考 察

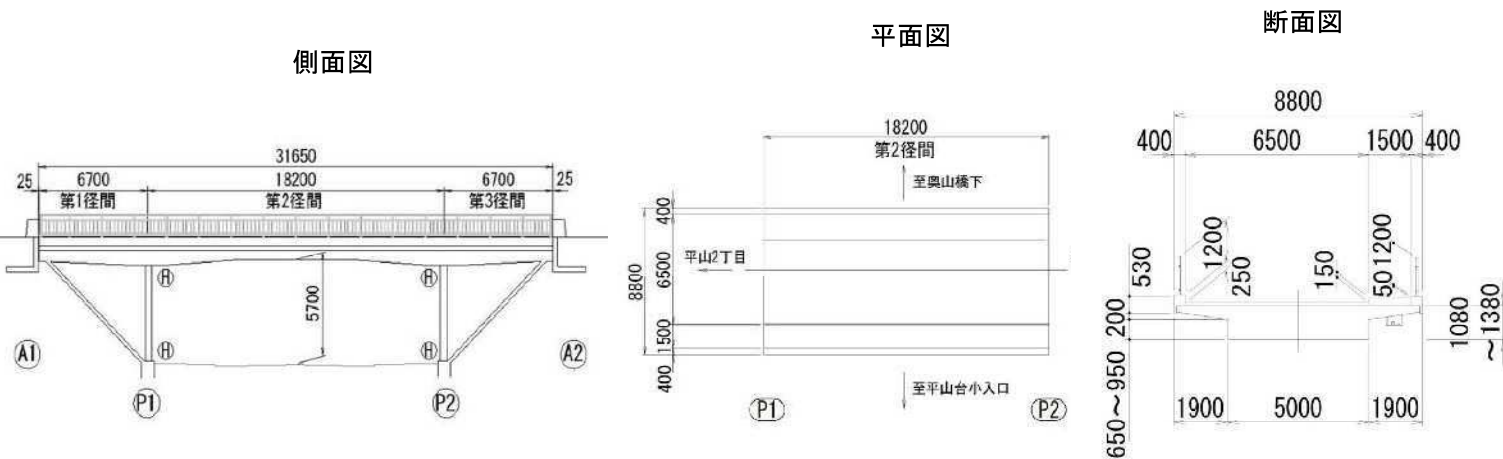
【原因推定】

路面からの水が舗装ひびわれを通じて、主構のセグメント連結の微細な隙間やひびわれなどから、中空断面に入り込み、主構下面のセグメント連結の微細な隙間から水分が漏れ出ていると推測する。

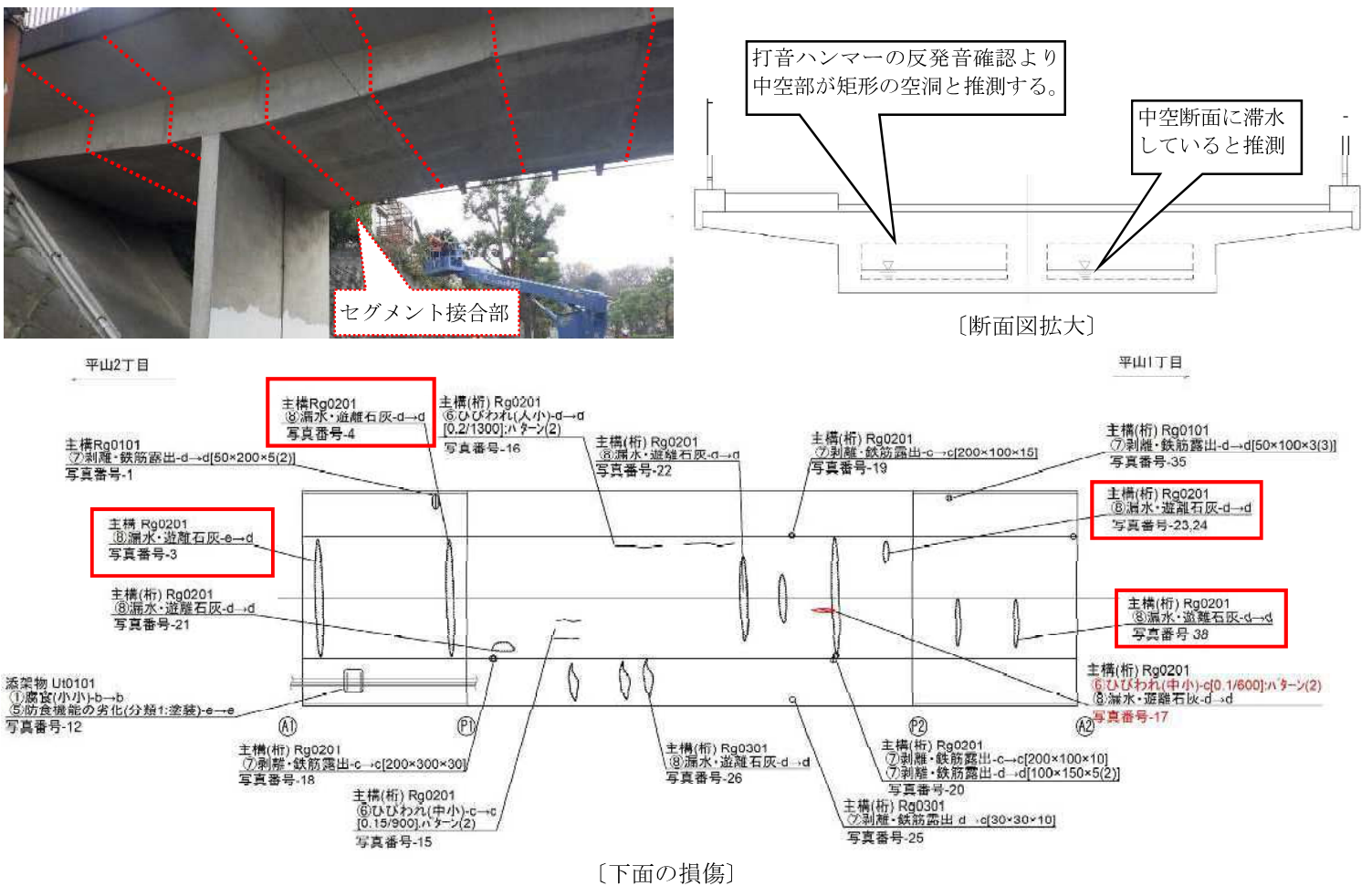
【今後の対応（案）】

中空断面に水が浸入していると、設計時に考慮していない死荷重が増加し橋梁構造に影響を及ぼす懸念がある。
中空断面の水を排出する水抜き穴設置と同時に箱内部確認のため詳細調査が望ましい。

一般図



損傷図



【奥山橋の特記損傷】（Ⅱ判定とするが特筆する損傷）							一般図		
通し番号	一連番号	橋梁名	路線名	橋長 (m)	全幅員 (m)	架設年			
16	172	奥山橋	市道 K39 号線	31.65	8.8	1972			
所在地・橋梁 ID			上部工形式	下部工形式					
日野市平山二丁目 3 6 番地 1 先 35.64418,139.38641			3 径間連続 PC ラーメン橋	躯体：その他（A1,A2） 基礎：不明（A1,A2）					
点検日	点検方法	交差物	適用示方書	設計活荷重					
2023.12.19	高所作業車	都道 155 号線	—	不明					
現況写真									
									
■特筆損傷（Ⅱ判定）									
概要	A1 側の斜材下部の裏込め土が無く、一部空隙となっている。更に奥を確認すると、A1 背面の土留め壁の下部にある基礎砕石が脱落している状態であった。						損傷図		
該当写真									
									
〔裏込め土：護岸の崩れ〕 〔フーチング：洗堀〕（基礎砕石の脱落） 〔フーチング：洗堀〕（基礎砕石の脱落）									
考 察									
【原因推定】									
本来、裏込め部には、前面の地盤流出防止のため土留工を実施すべきだが当該橋梁は土留工が未実施である。結果として、基礎に施工した砂礫層内部に浸透水が浸透し砂が流出、礫に空間が生じていると推測する。もしくは施工当時から裏込め処理しておらず、施工不良の可能性もある。									
【今後の対応（案）】									
切土区間に建設されている斜材付きπ型ラーメン橋は、比較的耐震性能が高い構造である。ただし、裏込め部の背面土の地盤状況が耐震性能を左右するため、裏込め部に空隙が無いことが望ましい。補修としては、裏込め注入工法が考えられるが、予防保全の観点とすることから、日野市管理橋梁の補修計画や財政状況を鑑みて補修検討することが望ましい。									

奥山橋 下部工(A1,P1)		
主構(垂直材) 正面図	主構(斜材) 正面図	損傷なし
A1側		